



中学の部活が変わり始めた！ 高校も？

中学の部活は激変になりそうです。文科省は部活の外部委託化構想を進めています。スポーツ庁は来年度からの「休日の運動部の段階的な地域移行」を提言、25年度末の目標達成を掲げました。「部活が子どもたちを人間的に成長させる」という意見がある一方で、勝利至上主義に傾く弊害・試合に出る子と出ない子との格差・顧問の疲弊など、そのマイナス面が指摘されてきました。現時点での多数意見は、「経済的困難を抱え、勉強が好きではない子どもも学校に来られるよう、部活に依存してきた歴史がある。教員はそこに大きな労力をかけてきたが、教員は子どもの学力を伸ばすことが本来の役割だ」という日本大学の末富教授（教育行政学）の言葉に集約されるようです。

群馬県ではこの6月に第1回部活動運営の在り方検討委員会（健康体育課）が開かれ、教職員の多忙化解消、「適切な部活動の運営に関する方針」に基づく中学・高校部活動の一層の充実に向けた諸課題への対応と今後の在り方を検討」といった目標を掲げています。また、県中体連は24年度から「春季大会廃止・県総体に統合」を決定しました。さらに、来年度以降は県総体の開会式も廃止です（9/22上毛）。中学の先生に聞くと「全国的には春季大会も県総体の開会式もなくなってきた中、群馬のみ残っていた」とのこと。弊害の方が大きいとする現場職員の多数派の声がようやく届いたという形です。

以上の流れを踏まえて「高校の部活をどうするか？」について全国でも本県でも組合交渉が続いています。毎年の県庁での交渉を見ていて感じるのは、具体例を挙げての説明は共感を広げ、聞いている県教委の人たちが頷き始めることが多いという事実です。そして、要請を受けた各課の方たちは「すぐには改善できないかもしれませんが」と前置きを述べるも翌年、翌々年への改善へと繋がっていくのを感じます。

今後、部活指導に奮闘される方をタダ働き同然とするのではなくダブルワークとして正當に評価する、「もっと授業準備や教材研究に時間を確保したい！」という方には部活を軽減する、という方向に進むことになるでしょう（というか、その方向に進めるべく要請・交渉を続けています）。この10月、11月の交渉も「多忙化解消」を前面に出していきます。

政府・教育行政が頼りなくても！

国葬反対の多数意見を「丁寧に聞く」ことなく強行する、また、統一教会問題で迷走するなど、国のトップが信頼できません。反社会的集団からの援助で当選し、靈感商法で大勢の人たちの人生を破壊してきた組織を手助け・宣伝してきた政治家たち。各種メディアで報道されているように、それは文部行政にも入り込み、学校現場でも旧統一教会の人たちが素性を隠して講演会を実施してきました。

文部省の不正の歴史を遡れば、1902年の教科書疑獄事件から2018年の文部科学省汚職事件ははじめ様々ありますが、現在次々に出てきている問題は民主主義や公教育の根幹に関わります。文部大臣経験者の資質欠如は特に深刻だと思います。なぜこの人たちが？という感じです。

第25、26代文部科学大臣の萩生田さんは統一教会に足繁く通い「神の国の実現を果たしたい」と力強く語っていたとか。18、19代大臣の下村さんは統一教会の名称変更を突然許可しました。統一教会の教義に同調する政治家たちは、この30年余、ジェンダー教育に反対し、真剣に性教育に取り組む教職員への妨害を行ってきました。

でも負けてはいません。全国各地の教職員は組合に結集し対抗してきました。この群馬でも声を上げる人は大勢います。今回の国葬問題でも「弔意の強制をしない、思想の自由を守る」よう私達は訴えてきました。

物価高、ガソリン代、賃金改善、入試一本化、定年延長問題・・・私達は忖度することなく、時の政権、文科省、県にしっかりと意見、要求を出していこうではありませんか！

ご意見、ご支援をお願いします！



秋季要請～確定交渉が行われます

高教組にご意見・要求をお寄せください。Email: ghtu@educas.jp

群馬高教組のHP / <https://ghtu.org> こちらからもどうぞ⇒

